

DG Value News

第38期中間のご報告

2018年1月1日～2018年6月30日

特集

中期経営計画(2016年度～2020年度)の
見直しに関するお知らせ



LASER DECORATION
DIGITAL PERSONALIZATION



LD-80

一目で分かるローランド ディー.ジー.

企業理念 | Corporate Philosophies

● ミッション

デジタル技術の活用で、より豊かな社会を実現する

● ビジョン

イメージをカタチに

● 企業スローガン

◆ 創造の喜びを世界にひろめよう

◆ BIGGESTよりBESTになろう

◆ 共感を呼ぶ企業にしよう

ローランド ディー.ジー.の強み

当社グループのネットワークを活かした

グローバル展開 (2018年6月30日現在)

展開する国と地域

200以上

海外連結子会社

17社



購入前から購入後まで
フルにサポート

3つの「R」



ローランド ディー.ジー.
クリエイティブセンター



ビジネス提案



Roland DG Academy

ローランド ディー.ジー.
アカデミー



教育・トレーニング



Roland DG Care

ローランド ディー.ジー.
ケア



サポート

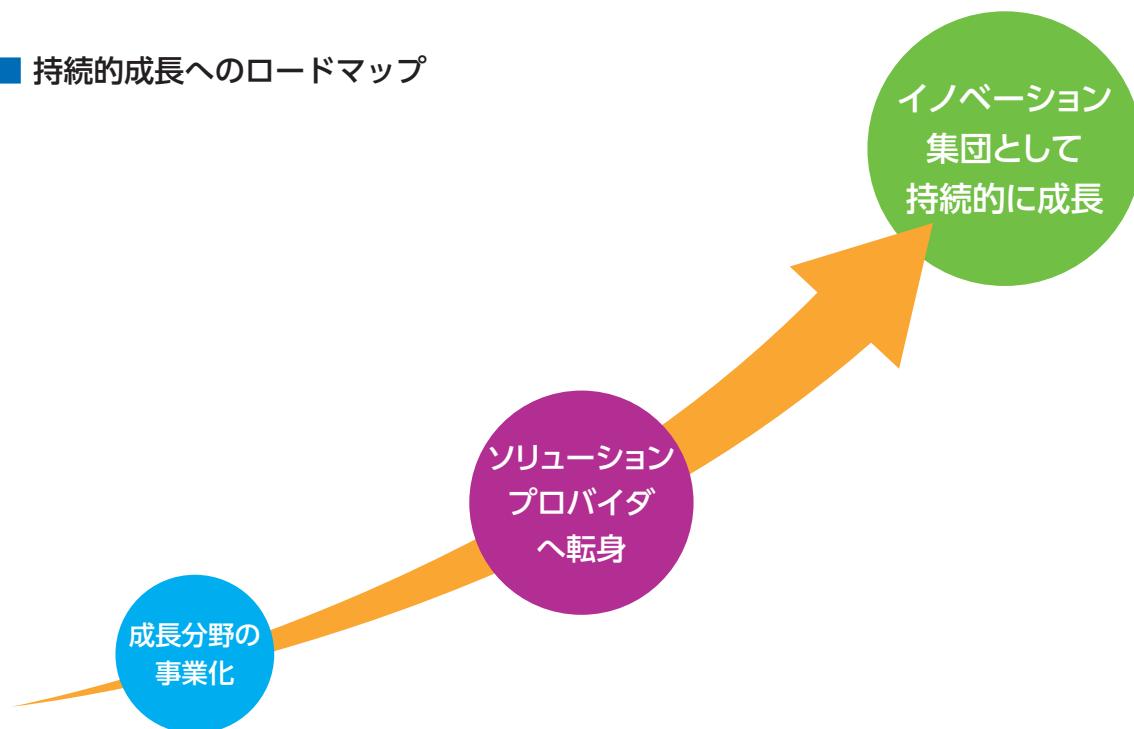
多品種少量、オンデマンドを追求する
当社独自の生産システム

D-Shop (ディー・ショップ)



中期経営計画〈2016年度 - 2020年度〉

■ 持続的成長へのロードマップ



本中期経営計画では、社会や産業の変化に適合した製品やソリューションを提供することによりイノベーションを起こし、持続的成長を図ってまいります。そのために「成長分野の事業化の加速」「ソリューションプロバイダへの転身」「イノベーション集団への転身」という3つの重点課題に取り組んでいます。

なお、これまでの業績動向を踏まえ、業績計画や取り組み内容について見直しを行いました。詳しくは本誌P5-6をご参照下さい。

株主の皆さまへ



ごあいさつ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

第38期第2四半期(2018年1月1日～2018年6月30日)が終了いたしましたので、事業の概況および連結決算のご報告を申し上げます。

2018年9月

代表取締役社長 藤岡秀則

■ 第38期第2四半期の概況

プリンターの販売減少により減収となったものの経費減少で増益となりました。

当第2四半期の世界経済は、米国では設備投資や個人消費が増加し、欧州でも雇用情勢が改善するなど、総じて緩やかな回復基調が続きました。

このような状況の中、当社は「デンタル(歯科医療)市場」と「リテイル市場」の成長分野の事業化の加速を推進することで、プリンターの主力市場であるサイン(広告・看板製作)市場に依存する事業構造から、多軸の事業ポートフォリオへの転換に取り組んでおります。当社グループの「DGSHAPE(ディージーシェイプ)株式会社」は、デンタル市場を焦点として3D事業の拡大に取り組みました。また、リテイル市場においては、オリジナルグッズを製作する小

規模工場に加え、店頭でスマートフォンケースや家電製品などへ加飾サービスを提供する小売店へもUVプリンターの導入を進めてまいりました。一方、サイン市場では、市場の成熟化に加えて大手メーカーの本格参入により競争が一層激化しており、各地域で販売促進キャンペーンを継続してプリンターの販売回復に取り組みました。

これらの結果、デンタル市場の拡大により工作機器の売上が増加したことや為替の円安効果があったものの、主にサイン市場向けプリンターの販売が低調に推移し、減収となりました。販売費及び一般管理費は、人件費や広告販促費が減少したことで前年同期を下回りました。これにより、営業利益、経常利益ともに増益となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期においては、特許訴訟の和解金を特別損失に計上したこともあり大幅な増益となりました。

第38期第2四半期 連結業績

	第38期第2四半期 連結業績	前年同期比
売上高	209億73百万円	2.0%減
営業利益	17億81百万円	30.1%増
経常利益	16億27百万円	19.5%増
親会社株主に帰属する 四半期純利益	10億42百万円	—

※ 当第2四半期における主要通貨の為替レート(2018年1月～2018年6月の平均レート)は、108.69円/米ドル(前年同期112.38円)、131.67円/ユーロ(前年同期121.67円)でした。

■ 通期連結業績予想について

引き続き、成長分野への活動を強化しますが、売上高は横ばい、営業利益、経常利益は減益、親会社株主に帰属する当期純利益は増益となる見込みです。

通期の連結業績予想につきましては、売上高は前期並みとなる見込みです。利益面では、技術力強化のための研究開発費の増加に加え、成長分野への活動強化にともなう経費が増加することにより、営業利益、経常利益は減益、親会社株主に帰属する当期純利益は前期に特許訴訟和解金による特別損失を計上したため、増益となる見込みです。

第38期通期 連結業績予想

	第38期通期 連結業績予想	前期比
売上高	436億円	0.1%増
営業利益	34億円	11.8%減
経常利益	32億円	15.9%減
親会社株主に帰属する 当期純利益	22億円	14.7%増

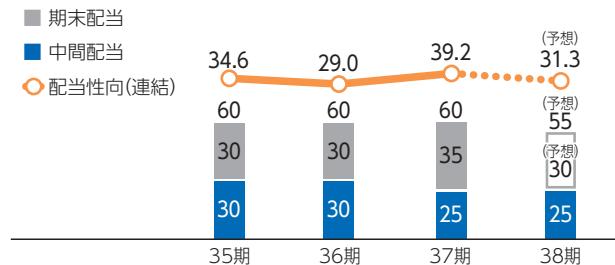
■ 株主還元について

業績に応じた利益還元を基本方針とし、事業展開を総合的に勘案しながら決定してまいります。

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を最優先と考え、業績に応じた利益還元を配当の基本方針としております。具体的には連結利益に対する配当性向30%を念頭に、事業展開を総合的に勘案の上、決定しております。当期は、中間配当につきましては25円といたしました。また、期末配当につきましては、30円を予定しております。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

一株当たり配当金/配当性向(連結) (単位：円/%)



中期経営計画(2016年度～2020年度)の見直しに関するお知らせ

当社では、2016年度より「GrowthOne(グロースワン) イノベーションによる持続的成長」を基本方針とした5ヶ年の中期経営計画(以下、本中期計画)に取り組んでおります。しかし、サイン市場における競争が想

定以上のスピードで激しくなったことに加え、プリンターの技術力強化の進捗遅延などにより2020年度の目標達成は困難と判断し、業績計画や取り組み内容などについて見直しを行いました。

見直しの背景

本中期計画では、①成長分野の事業化の加速、②ソリューションプロバイダへの転身、③イノベーション集団への転身、という3つの重点課題にグループ一体となって取り組んでおります。特に成長分野の事業化の加速では、リテイル市場とデンタル市場の開拓が進みました。一方、従来からの主力市場であるサインは大手メーカーの参入による競争が想定以上のスピードで激しさを増しており、プリンターおよびインクの売上減少が続くなど当社業績が伸び悩む主要因となりました。加えて、プリンターの技術力強化の進捗遅延の影響が製品開発に及んだことや当初設定した注力分野の開拓が想定通り進まず、当初の目標達成は困難と判断し、本中期計画を見直すことといたしました。

課題

今回の見直しでは、残りの本中期計画期間を新たな成長ステージに向けた転換期と位置づけ、サイン市場に依存する事業構造から多軸の事業ポートフォリオへの転換に向けて、経営基盤の再構築を早急に進めます。再構築にあたっては、「成長分野の拡大」、「サイン市場向けプリンターの下げ止め」、「収益性の改善」の3つの課題への対応が不可欠であり、重点課題として取り組んでまいります。

成長分野の拡大

●注力分野の再設定と経営資源配分の明確化

これまでの事業活動で成長が期待でき、当社の強みが活かせる市場や顧客層がより明確になってきました。これを受けて本中期計画当初に6分野(多用途印刷、リテイル、テキスタイル、サイン、3Dものづくり、デンタル)としていた注力分野を3分野(デジタルプリンティング、COTO、DGSHAPE)に絞り直します。また、分野ごとの経営資源配分を明確にし、事業運営を強化します。

●リテイルから発展させた新事業の拡大

実店舗に来店する最終消費者への価値提案により、加飾サービスの用途拡大を目指します。

サイン市場向けプリンター売上の下げ止め

●技術開発の強化、新製品の投入

さまざまな材料と形状のメディア(印刷対象物)に印刷できるプリンティング技術の開発に取り組めます。

●現地パートナーとの協業による製品ラインナップの強化

グローバル販売網を活かした現地パートナーとの協業により、当社製品を特定用途向けにカスタマイズすることで最適なソリューションを提供します。

収益性の改善

全社的な収益性の改善として、収益性の高い自社開発インクの拡販、継続的な原価低減、販管費の圧縮に取り組めます。

再設定した注力分野の戦略

デジタルプリンティング事業

当社では、これまでサイン(看板・広告)製作のデジタル化を推進し、「コンパクトサイズ」、「多用途」、「簡単操作」を強みに、顧客の裾野を拡大するとともに、シール・ラベル製作、オリジナルTシャツ製作など周辺用途を開拓することに成功しました。今後もサイン市場の成熟化が進むと想定される一方、当社が開拓したさまざまなデジタルプリンティング分野は成長していくと考えています。デジタルプリンティング事業では、サイン市場の強固な顧客基盤を維持することに加えて、当社の強みを活かした用途提案により、新たな市場を創出してまいります。

COTO(コト)事業

リテイル事業では、UVプリンターによるスマートフォンケースへのオリジナル加飾印刷用途を確立し、店頭で当社製品を使ってサービスを展開される小売店舗を開拓してまいりました。今後は、個人のニーズを捉えたソリューション提案として、プリンターや各種工作機器を組み合わせることで世界に一つだけの商品を生み出すパーソナライズ・サービスのラインナップを拡充するとともに、店頭での個人のお客様が直接デザインできるソフトウェアを用意して、驚きや感動体験といった付加価値を提供してまいります。このように製品提供だけではなく、“コトづくり”までを目的とした「COTO(コト)事業」を新たに立ち上げ、推進してまいります。

DGSHAPE(ディージーシェイプ)事業

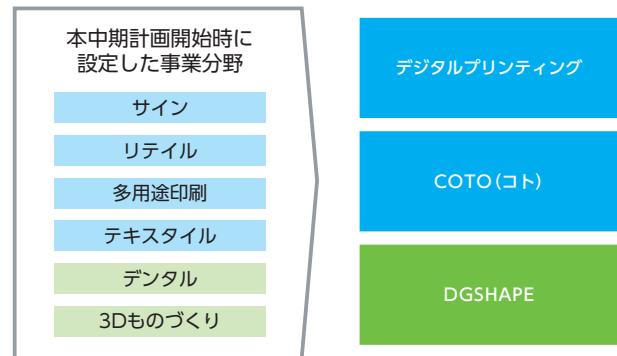
歯科技工のデジタル化が進むデンタル分野では、歯科技工所に加えて歯科医院へのソリューション提供も視野に入れ、グローバルNo.1メーカーを目指して地域展開とシェア拡大をさらに加速します。

3Dものづくり分野においては、デジタルものづくり教育の機運がグローバルで高まっています。当社3D製品の「コンパクト・簡単操作・導入しやすい価格」のコンセプトと、これまで教育分野に取り組んできたノウハウを活かし、一

層の拡大を目指すとともに、ものづくりの喜びや楽しさを次世代のクリエイターやエンジニアに提供します。

また、医療現場の安全を担保するトレーサビリティシステムや手術器具の管理作業全般のデジタル化を支援するシステムを、浜松医科大学、浜松赤十字病院で試験運用を実施しております。今後は一層のシステムの成熟を図りながら、事業化を目指します。

事業分野の再定義



修正数値計画

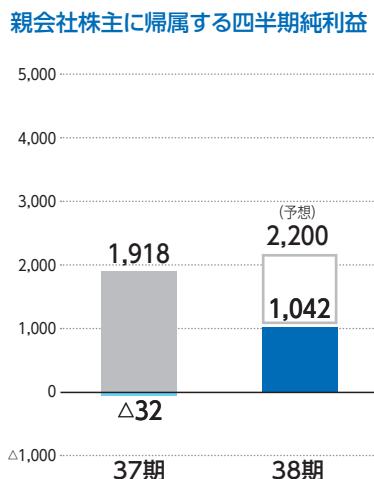
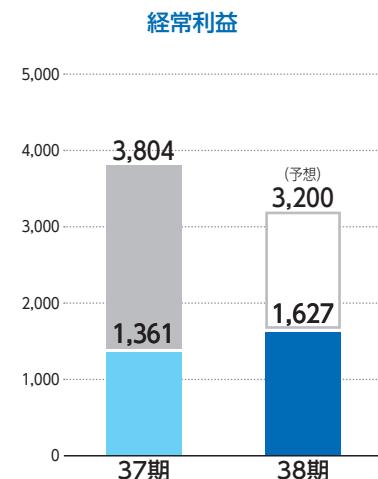
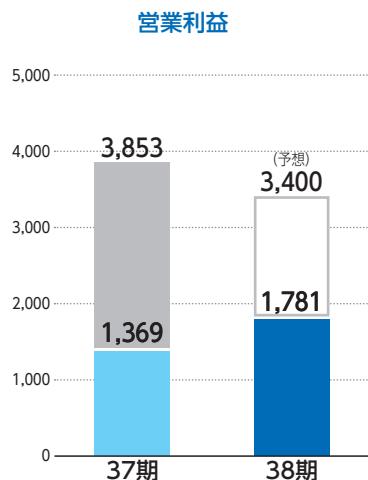
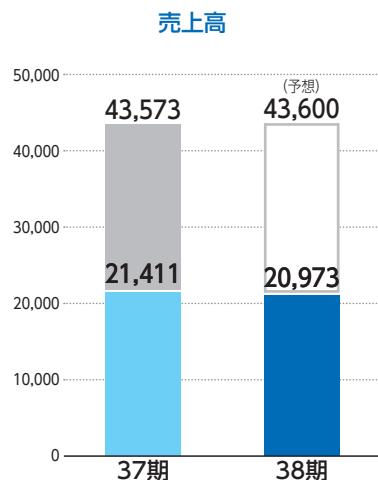
	直近実績 2017年度 (平成29年度)	当初計画 2020年度 (平成32年度)	修正計画 2020年度 (平成32年度)
連結売上高(億円)	435	760	460
連結営業利益(億円)	38	100	45
営業利益率	9%	13%	10%
ROE	9%	15%	12%
1米ドル	112円20銭	115円(想定)	110円(想定)
1ユーロ	126円70銭	125円(想定)	130円(想定)

連結財務諸表

連結損益計算書の概要および通期連結業績予想

(単位：百万円)

■ 第2四半期 ■ 通期



POINT

連結損益計算書

売上高は、主にサイン市場向けを中心としたプリンターの販売が低調に推移し、前年同期比2.0%減の209億73百万円とわずかに前年同期を下回りました。売上原価率は、前年同期に比べ1.0ポイント改善しました。販売費及び一般管理費は、人件費や広告販促費が減少したことで前年同期を下回りました。これらの結果、営業利益は前期比30.1%増加の17億81百万円、経常利益は前年同期比19.5%増加の16億27百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、10億42百万円となりました。

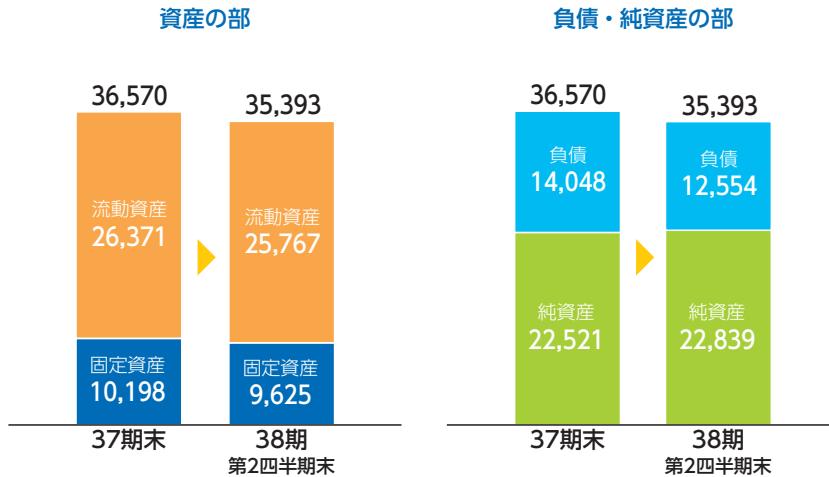
通期連結業績予想における想定為替レート

(単位：円)

	37期実績	38期想定
USD	112.20	110.00
EUR	126.70	130.00

連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)



POINT

連結貸借対照表

総資産は37期末と比べ11億77百万円減少し、353億93百万円となりました。

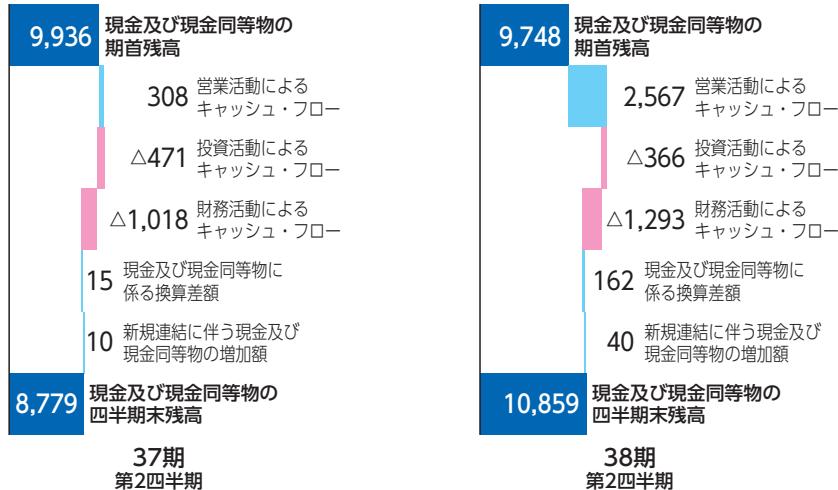
流動資産では、現金及び預金が10億93百万円増加し、商品及び製品が7億33百万円減少しました。固定資産では、特に大きな変動はありませんでした。

負債では、支払手形及び買掛金が2億5百万円減少し、長期借入金が返済により7億20百万円減少しました。

純資産は、当期間の業績などにより利益剰余金が5億99百万円増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



POINT

営業活動によるキャッシュ・フロー

主な増加要因は、利益面で税金等調整前四半期純利益に転じたことが大きく、たな卸資産が減少したことなどです。主な減少要因は、売上債権が増加したことなどです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

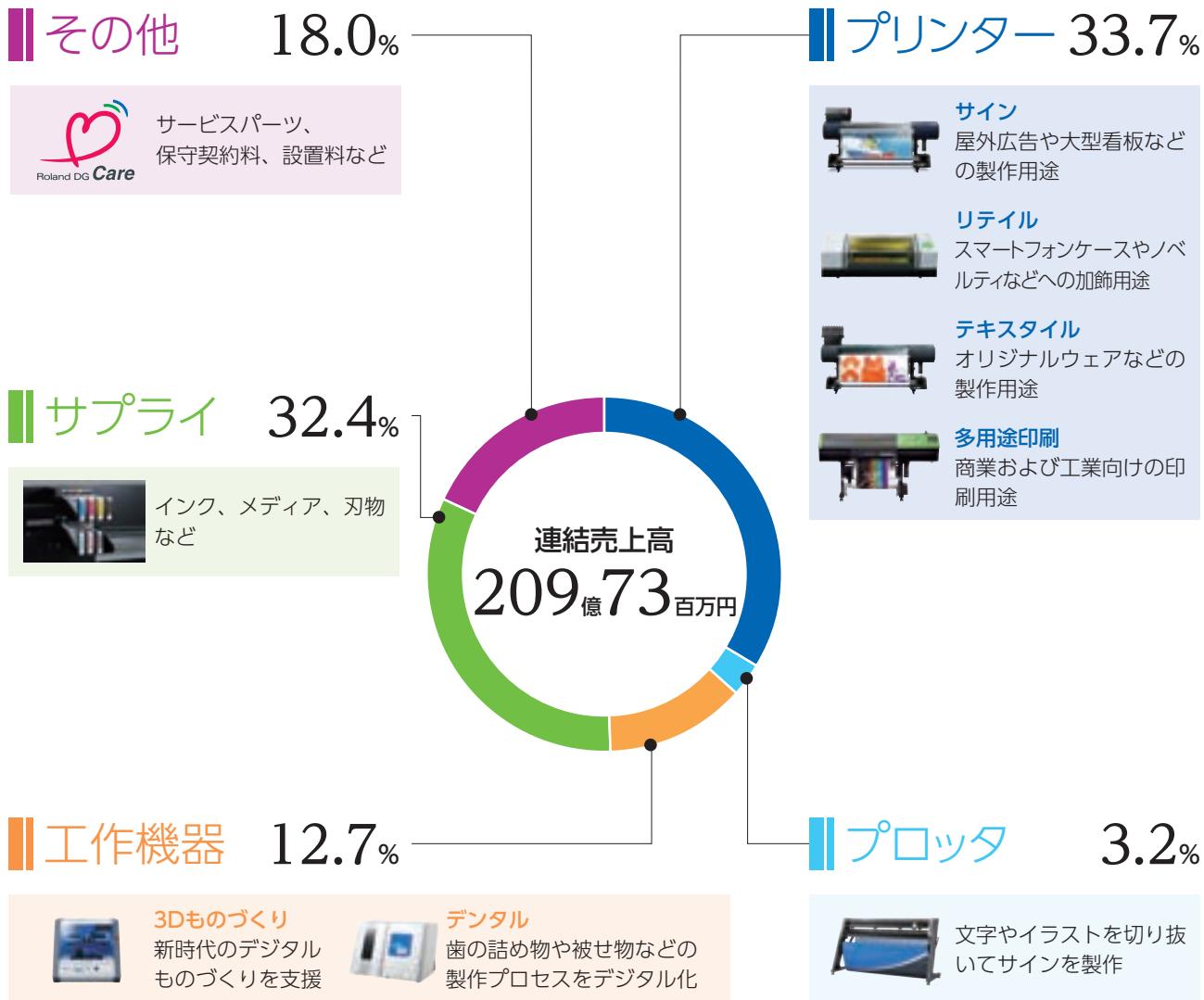
有形固定資産の取得による支出が減少したことが主な要因となり、前年同期と比べ支出額は減少しました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

主に短期借入金を返済したことが要因となり、前年同期と比べ支出額は増加しました。

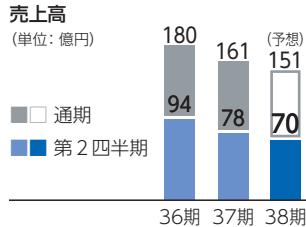
事業の概況(品目別)

売上高構成比(第38期第2四半期)



プリンター

売上高
70億61百万円
前年同期比 10.2%減 ↓



POINT

- サイン市場向けプリンターが減少
- UVプリンターは前年同期並み

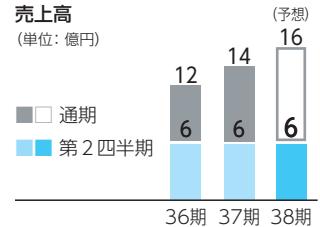
サイン市場では、市場の成熟化に加えて大手メーカーの参入により競争が激化しており、顧客ニーズが高価格帯製品から低価格帯製品へと変化しております。当社では、同市場での顧客を維持するため、各地域での販売促進キャンペーンを継続してプリンターの販売回復に取り組んでおります。また、リテイル市場では、スマートフォンケースや家電製品、ノベルティなどのオリジナルグッズ製作や販売をおこなう小規模工場と小売店舗へ小型UVプリンターを提案し、ビジネス拡大に取り組んでおります。



当第2四半期は、サイン市場において主に新興国を中心に低価格プリント専用機の販売が増加したほか、パネルボードや展示什器などの大判板材への印刷に対応するUVプリンターの販売が欧米を中心に増加しました。しかしながら、主力機種 TrueVIS (トゥルービズ) シリーズの販売は減少しました。リテイル市場では、小型UVプリンターの LEF-12i の販売は好調に推移しましたが、高い生産性が特長の LEF-300 の販売は伸び悩みました。

プロッタ

売上高
6億84百万円
前年同期比 0.7%増 ↑



POINT

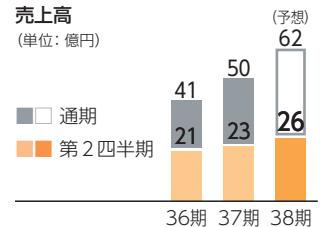
- サイン市場向けカッティングマシンの販売が増加

サイン市場向けの大型カッティングマシン GR-640/540/420 の販売が進みました。



工作機器

売上高
26億57百万円
前年同期比 12.0%増 ↑



POINT

- デンタル加工機は新製品効果が継続
- 3次元切削加工機の主要機種が減少

デンタル

3Dものづくりやデンタルなどの3D事業を担う DGSHAPE 株式会社は、製造業や彫刻業、教育機関などの3Dものづくり市場を基盤に、成長分野のデンタル市場の拡大を加速させるとともに、より広い領



事業の概況(品目別)

域で新たな価値を提案することで3D事業の拡大を図っております。デンタル市場では、当期2月、歯科技工所の経営管理をサポートする専用ソフトウェア「DWINDEX(ディー・ダブルユー・インデックス)」を付したオートディスクチェンジャー機能搭載のDWX-52DCiと、ガラス繊維強化樹脂などの新たな材料に対応したDWX-52Dのデンタル加工機2機種を発売しました。

3Dものづくり

3Dものづくり市場では、主に前々期の10月に発売した3次元切削加工機MDX-50の販売が、新製品効果により前年同期は高水準だったこともあり、当第2四半期の販売は減少しました。当期3月に発表しました世界初の半導体レーザー箔転写機LD-80は、半導体レーザーを採用することで、従来では困難であったプラスチック製品への箔による加飾が可能となりました。LD-80は、店舗で使いやすいようにコンパクトサイズ、安全性、簡単な操作性を兼ね備えており、プリンターで開拓を進めているリテイル市場の小売店舗にも積極的に提案しております。

これらの結果、デンタル加工機の販売が大きく増加したことで、工作機器の売上高は前年同期を上回りました。

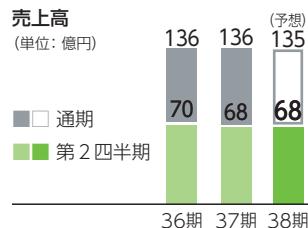


サプライ

売上高

68億02百万円

前年同期比 0.7%減 ↓



POINT

● UVインクやテキスタイルインクの販売が増加

UVプリンターやテキスタイル用プリンターのインクの販売が増加しましたが、サイン市場向けプリンターのインクの販売が前年同期を下回りました。

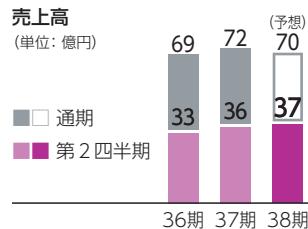


その他

売上高

37億68百万円

前年同期比 3.3%増 ↑



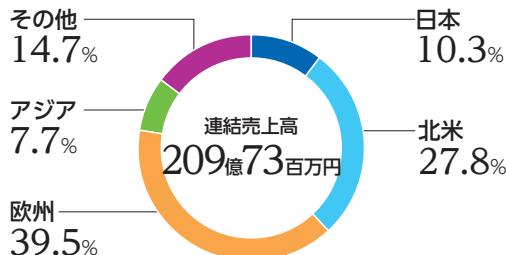
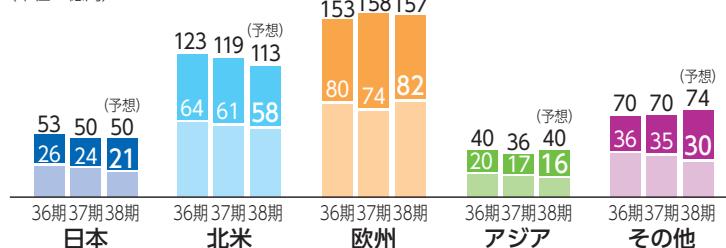
POINT

● サービスパーツと保守料が増加

保守やサービスパーツなどその他の売上高は前年同期を上回りました。



売上高構成比(第38期第2四半期)

売上高
(単位：億円)

POINT

- 日本では、プリンター全体が減少し、低調
- 北米では、リテール専任チーム発足、開拓が徐々に進む
- 欧州では、デンタル加工機の販売エリア拡大により伸ばしたほか、サイン用プリンターも堅調に推移
- アジアおよびその他地域では、デンタル加工機やUVプリンターが増加したものの、サイン用プリンターが低調

日本 21億65百万円 前年同期比 13.4%減 ↓

工作機器では、デンタル加工機の新製品の販売が好調に推移するとともに、前期12月の保険適用範囲の拡大により、既存機種の販売が前年同期を大きく上回りました。プリンターでは、サイン市場向けプリンターや、リテール市場向けおよびパッケージ試作用途のUVプリンターの販売が、前年同期と比べて低迷しました。

北米 58億39百万円 前年同期比 5.2%減 ↓

工作機器では、主に生産性を求める中規模クラスの歯科技工所に向けて、オートディスクチェンジャー機能を搭載したデンタル加工機の販売が好調でした。リテール市場においては、専任チームを編成して販売代理店の拡充に注力しました。設置スペースに制約のあるお客様に対しては、シリーズで最もコンパクトなUVプリンターを、出力量の多いお客様へは高い生産性が特長のLEF-300を提案するなど、お客様のニーズに適し

た提案活動が徐々に成果を上げております。一方で、主力であるサイン市場向けのプリンターの販売が減少しました。

欧州 82億84百万円 前年同期比 10.5%増 ↑

プリンターでは、販売促進キャンペーンやリテール市場への注力により、サイン市場向けプリンターと小型UVプリンターの販売が前年同期並みとなりました。また、パネルボードや展示什器などの大判板材への印刷に対応するサイン市場向けのUVプリンターの販売が増加しました。工作機器では、オートディスクチェンジャー機能を搭載したデンタル加工機を中心にDWXシリーズの販売が好調に推移しました。

アジア 16億10百万円 前年同期比 8.1%減 ↓

中国と韓国では、デンタル加工機の販売が増加しましたが、サイン市場向けプリンターを中心にプリンターの販売が低迷しました。ASEAN地域では、サイン市場向けプリンターの販売が減少しました。

その他 30億74百万円 前年同期比 12.2%減 ↓

南米では、サイン市場向けの低価格プリント専用機の販売が増加しました。オーストラリアでは、デンタル加工機の販売が大きく増加したものの、サイン市場向けプリンターの販売は低調に推移しました。中東地域では、サイン市場向けプリンターを中心に売上が低迷しました。

新製品情報

デンタル
加工機

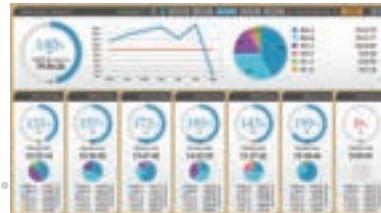
DWX-52DCi

2018年2月1日発表 標準価格：3,980,000円(税抜)

材料を自動交換するオートディスクチェンジャーを搭載したデンタル加工機の最新機種。歯科技工業務における費用や投資対効果などの重要な経営指標を可視化するソフトウェア「DWINDEX(ディー・ダブルユー・インデックス)」を新たに搭載しました。「DWINDEX」は、製品稼働時間、エラー履歴、使用材料の履歴などをデータ化し、生産性向上、業務の高付加価値化に向けて数値的管理を支援します。DGSHAPE株式会社では、「DWINDEX」を次世代デジタル技術を活用するIoT構想の基盤として捉え、今後も製品力を高めるとともに、歯科技工所全体の経営管理をサポートするソリューションプロバイダへの転身を目指してまいります。



DWINDEX



デンタル
加工機

DWX-52D

2018年2月1日発表 標準価格：3,150,000円(税抜)



デンタル加工機のスタンダードモデル。DWX-52Dは、作業机に設置できる「デスクトップサイズ」、誰もが簡単に操作できる「使いやすさ」、お手持ちのCAD/CAMソフトウェア、スキャナなどと組み合わせさせていただける「オープンシステム」、「導入いただきやすい価格」などの基本コンセプトのもと、高精度とユーザビリティを追求したDWX-51Dの後継機種です。新設計のクランプシステムを搭載し、ディスクの交換がこれまで以上にスムーズになり、歯科技工業務の効率化を推進します。また、新たにガラス繊維強化樹脂などの材料の切削にも対応し、幅広い技工物の加工を可能にしました。

半導体
レーザー
箔転写機

LD-80

2018年5月1日発売 標準価格：オープン価格

従来の箔押しでは困難であったプラスチック製品への箔押しを可能にした、世界初の半導体レーザー箔転写機。熱源に半導体レーザーを採用することで、金型を用いる従来の箔押し方法より、安価でオンデマンドな加飾が可能となります。また、初めてでもすぐに使いこなせる簡単操作が特長で、コンパクトボディと安全設計を両立し、店頭での設置にも最適です。リテイル市場向けに文具や化粧品など、量産品へ箔転写することで高級感をプラスしたオリジナルグッズ製作を提案してまいります。





サービスエンジニアの技能コンテスト 「Global SE Award 2018」を開催

4月23日～25日、当社製品の修理・メンテナンスに携わるサービスエンジニア(以下SE)を対象とした技能コンテスト「Global SE Award(グローバル・エスイー・アワード) 2018」を浜松本社で開催いたしました。

当社では、高品質かつ世界均一のメンテナンスサービスを提供する「ローランド ディー・ジー・ケア」の品質向上およびSEのモチベーション向上を目的に、日々の業務で会得したスキルや知識をコンテスト形式で競い合うGlobal SE Awardを開催しています。世界大会としては3度目の開催となる今回は、インクジェットプリンター部門と、デンタル加工機および3次元切削加工機部門の2部門でチャンピオンの座を競いました。

事業の競争環境が激しくなる中、他社と差別化し、当社製品をお客様に安心してご利用いただくうえで、サービス・サポート活動の重要性は年々高まっています。今後も、コンテストなどを通じてSEが切磋琢磨できる機会を提供するとともに、サービス・メンテナンスに関する最新情報や、それぞれの現場で培った知識やノウハウをインターネット上で共有できるオンラインシステムの機能を強化していくことで、グループ全体でお客様によりご満足いただける高付加価値なサービスの提供を目指してまいります。

インクジェットプリンター部門 チャンピオン🏆 マーク・ジョンソン(オーストラリア出身)SE歴：19年

私たちSEは一つのチームであり、よい仕事をしていくためには、チームワークが欠かせません。私は普段からオンラインシステムで世界中のSEと情報共有することをとても大切にしています。今回の大会を通して、それが自分の仕事の質を高めることにも繋がっているのだと、改めて実感することができました。これからも積極的に情報共有をしながら、お客様に高品質なサービス・サポートを提供し続けていきたいと思えます。



3D・デンタル部門 チャンピオン🏆 ケビン・ユージーン・ローゼン(アメリカ出身)SE歴：3年

このような世界規模の大会で優勝できた喜びをどのように表現したらよいか分かりません。日本で過ごした時間は私にとって一生忘れられないものになりました。これからもさらに成長できるよう、日々学び続けたいです。



DGSHAPEの世界初・半導体レーザー箔転写機LD-80が、 「Laser Focus World 2018 Innovators Awards」にて金賞を受賞



DGSHAPE株式会社のレーザー箔転写機LD-80が、アメリカの光電子工学の専門誌「Laser Focus World(レーザー・フォーカス・ワールド)」が主催する「Laser Focus World 2018 Innovators Awards(レーザー・フォーカス・ワールド2018 イノベーターズ・アワード)」において金賞を受賞いたしました。同Awardsは、光学・光電子工学・精密工学に関連する製品、システム、アプリケーションを募集し、独自性や革新性、ユーザーにもたらすインパクトの大きさ、新規市場のニーズの捉え方、新規技術の活用度合、生産性への寄与度合などの評価基準に基づき、専門家の合議によって選考、表彰されるものです。LD-80は、独自の技術によりプラスチック製品への箔による加飾を簡単かつ安価に実現したことが評価され、今回の受賞となりました。

今回の受賞は、私たちDGSHAPEのような新しいブランドにとって大変名誉なことです。DGSHAPEは、LD-80およびこれに続く一連の革新的なデジタルテクノロジーを駆使し、人々が未来を形にする手助けとなるよう邁進いたします。

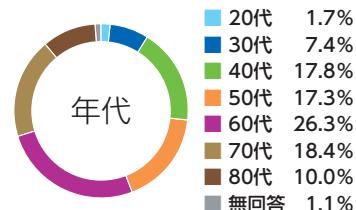
取締役 3D事業担当 田部耕平

株主さまアンケート集計結果

期間: 2018年3月24日から2018年6月30日

回答数: 1,234名 (2017年12月31日現在の株主数 14,405名)

前回の DG Value News に同封しました株主さまアンケートの結果の一部をご紹介します。お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございました。いただいた貴重なご意見・ご要望は今後の経営や IR 活動に活かしてまいります。



Q 本誌をお読みになり、興味を持たれた項目をお聞かせください (複数回答可)

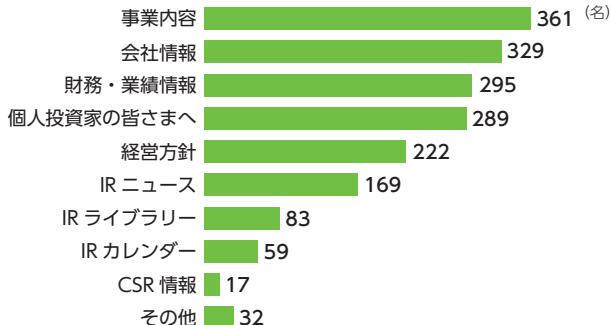
前回の DG Value News で興味を持たれた項目は、1位「一目でわかるローランド ディー.ジー.」、2位「株主の皆さまへ」、続いて「事業の概況(品目別)」という結果となりました。本号の特集では、当第2四半期に発表しました中期経営計画の見直しの内容について説明させていただいています。今後も中期経営方針にもとづいた重点課題への取り組みについて、理解を深めていただけるよう DG Value News の充実に努めてまいります。



Q 今後、ホームページ(IR情報)で充実して欲しいコンテンツをお聞かせください (複数回答可)

当社IRサイトが、日興アイ・アール社の「2017年度全上場企業ホームページ充実度ランキング調査」において優良サイト203社に選出され、さらにモーニングスター社の「Gomez IRサイトランキング2017」では「優秀企業 銅賞 235位」を受賞しました。株主さまアンケートでも今後の経営戦略、経営目標や決算説明会の動画配信を掲載して欲しいなどのご要望もいただきました。皆さまからいただいたご意見・ご感想を参考にさせていただきながら、ホームページの内容充実と積極的な情報開示を行ってまいります。

日興アイ・アール | www.nikkoir.co.jp/
Gomez | www.gomez.co.jp/ranking/ir/index.html



株主さま Q&A

株主さまアンケートにお寄せいただいたご質問・ご要望にお答えいたします。



Q DGSHAPE 社の活動状況をインターネットに詳しく載せてください。

A 当社ホームページでも DGSHAPE 株式会社の新製品、イベント情報を掲載しているほか、独自にホームページを開設しております。最新情報やレポートなども公開しております。ぜひ、ご覧ください。
www.dgshape.com/ja_JP/



株主優待品 寄付のご報告

2017年12月31日現在の株主さまにお送りしました「株主優待カタログ」において、「東日本大震災・熊本地震で被災した子供たちへの支援」への寄付を募集させていただいたところ、前年よりお申し出を多くいただいたため、西日本豪雨災害被災地への支援もさせていただきました。99,900円を株主さまに代わり現金にて認定NPO法人「カタリバ」に寄付させていただきました。また、株主優待権利未行使分につきましては、「東日本大震災で被災した子どもたちへの支援」として、認定NPO法人「国境なき子どもたち」へ720,900円を当社名義で寄付させていただきましたことを併せてご報告申し上げます。多数の株主さまのご芳志を賜り、厚くお礼申し上げます。



年間IRカレンダー



株主総会のご報告

3月23日、静岡県浜松市のオークラアクトシティホテル浜松において第37期定時株主総会を開催し、291名の株主さまにお越しいただきました。代表取締役社長の藤岡より、事業報告および決算の概要をご報告いたしました。決議事項では議決権行使状況を報告後、各議案の審議が行われ、全議案原案どおり承認可決されました。製品展示コーナーでは、新製品のLD-80を中心に製品や加工サンプルを見て触れていただくとともに、当社役員との懇親を深めていただきました。今後も、株主さまと直接コミュニケーションを深めることができる場として、ご満足いただける株主総会の運営に努めてまいります。



中国のSTEAM教育の最前線をご紹介します

近年、中国ではSTEAM(スティーム)教育に注目が集まっています。STEAM教育とは、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art(芸術)、Mathematics(数学)の5教科に力を入れる教育手法で、もともとはアメリカの国家戦略として21世紀社会に必要な資質・能力を育成することを目的に進められてきました。現在はヨーロッパやアジアでも関心が高まっています。今回は、当社の中国の販売子会社Roland DG China(以下DGC)のマーケティングマネージャー、祁誠(キ・セイ)に中国の教育現場における動きとDGCの取り組みについて聞きました。



Q 中国でSTEAM教育に注目が集まっている背景と現在の状況を教えてください。

A 国際競争力を上げるべく、人材育成という観点からSTEAM教育へ注目が集まっています。

中国の学校教育では、従来、大学入試に合格するための知識を教えることが優先されてきました。しかし、少子高齢化により労働人口が減少する中、今後、国際競争力を高めるためには、科学技術の知識と独創的な発想を持つ人材を育成していかなければいけないという機運が高まっています。そこで中国政府は、小学校から高校までの学校教育にSTEAM教育を導入しようとしています。一方、専門の教師が少ないため、どのように生徒に教えていけばよいか多くの教員が悩んでいるのが現状です。

Q STEAM教育では、当社製品がどのように貢献できるのでしょうか？

A 電子工作やプログラミングから芸術分野まで幅広く提案することができます。

当社の幅広い製品ラインナップの中から、電子工作やプログラミングには3次元切削加工機などの3Dものづくりに関する製品、芸術の分野にはインクジェットプリンターなどのデジタルプリンティングに関する製品をそれぞれ提案できるのが大きな強みです。

Q 具体的には、どのような活動をしていますか？

A ファブラボ*や大学と協力して、教育カリキュラムの開発提案を行っています。

教育現場と繋がり深い国内のファブラボと協力しながら、当社製品を使った教育カリキュラムを提案しています。また、STEAM教育の普及活動の中心的存在である上海の同済大学と協力して、独自のカリキュラムの開発に取り組んでいます。同済大学は、小学校から高校の教育に特化したファブラボ「FABLAB O(ファブラボ・オー)」を立ち上げており、その最大の特長は、当社製品を含むデジタルツールやカリキュラム、講師をパッケージとして提案していることです。FABLAB Oの講師は、機械の使い方だけでなく、生徒への指導方法

も学校側に提供します。昨年10月には、同済大学主催でSTEAM教育の普及を目的に、教育関係者を集めた「第1回国際STEAM教育フォーラム」が3日間にわたり開催され、当社も参加しました。前半は同済大学をはじめとした国内外のSTEAM教育の先進事例に関する講演やディスカッション、実際の教育現場の見学会が行われました。後半は其中で学んだ内容を実践するワークショップが開催されました。ワークショップでは、同済大学と共同で開発したSTEAM教育のカリキュラムの中から、小学校、中学校、高校などを想定したプログラムを実施しました。

* デジタルからアナログまでさまざまな工作機器を取り揃えた市民工房。

Q ワークショップで工夫した点を教えてください。

A 専門知識がない方でも、ものづくりができるよう工夫しました。

機械やものづくりなどの知識がない方でも、実際に手を動かしながらさまざまな知識に触られるよう工夫しました。例えば、スマートフォンアプリを使って、デザインを行い、当社インクジェットプリンターで印刷してオリジナルバッグを制作しました。まるで本物のデザイナーになったかのような体験は、参加者からも良い反応をいただくことができました。

Q 今後、どのような活動を行う予定ですか？

A 他の都市にも展開しながら、当社製品がSTEAM教育導入のヒントになる提案を行います。

今回同様のワークショップを他都市でも順次開催していくとともに、教育機関を対象として当社製品を活用した創造的な作品を募り、表彰するアワードの開催も計画しています。これからも当社の製品や活動が、STEAM教育を導入する際のヒントになればと思っています。



■ 会社概要

商号	ローランド ディー.ジー.株式会社
設立	1981年5月1日
資本金	3,668,700,000円
主な事業内容	コンピュータ周辺機器の製造販売
従業員数	1,257人(連結)

■ 役員一覧

取締役社長 ^{※1}	藤岡 秀 則
取締役副社長	デビッド・ゴワード
常務取締役	橋本 浩 一
取締役	田部 耕 平
社外取締役 ^{※2}	広瀬 卓 生
社外取締役 ^{※2}	遠藤 克 博
監査役	中川 正 則
監査役	鈴木 正 康
社外監査役 ^{※2}	松田 茂 樹
社外監査役 ^{※2}	本 田 光 宏

※1 代表取締役です。

※2 (株)東京証券取引所が定める独立役員です。

■ 会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

■ 事業所

本社	浜松市北区新都一丁目6番4号
都田事業所	浜松市北区新都一丁目1番3号
営業所	東京、名古屋、大阪、福岡
サポートセンター	札幌、仙台、広島

■ 連結子会社

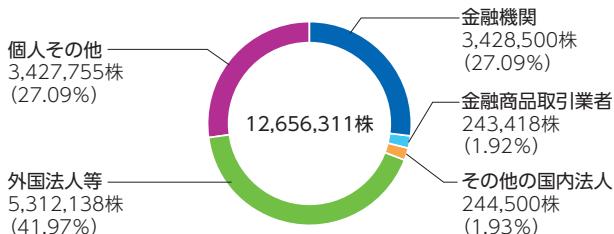
Roland DGA Corporation (アメリカ)
 Roland DG Benelux N.V. (ベルギー)
 Roland DG (U.K.) Ltd. (イギリス)
 Roland Digital Group Iberia, S.L. (スペイン)
 Roland DG Mid Europe S.r.l. (イタリア)
 Roland DG North Europe A/S (デンマーク)
 Roland DG Australia Pty. Ltd. (オーストラリア)
 Roland DG (China) Corporation (中国)
 Roland DG Korea Inc. (韓国)
 Roland DG Brasil Ltd. (ブラジル)
 Roland DG EMEA, S.L. (スペイン)
 Roland Digital Group (Thailand) Ltd. (タイ)
 Roland DG Deutschland GmbH (ドイツ)
 Roland DG Europe Holdings B.V. (オランダ)
 Roland DG RUS LLC (ロシア)
 InClif Corporation (アメリカ)
 DGSHAPE株式会社 (日本)
 Roland DG France SAS (フランス)

■ 株式の状況

発行可能株式総数	71,200,000株
発行済株式の総数	12,656,311株
株主数	10,205人

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,185,600株	9.36%
TAIYO HANEI FUND, L.P.	941,400株	7.43%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	914,714株	7.22%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	609,700株	4.81%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	529,500株	4.18%
TAIYO FUND, L.P.	473,400株	3.74%
富岡昌弘	326,900株	2.58%
ローランド ディー.ジー. 社員持株会	314,554株	2.48%
GOVERNMENT OF NORWAY	292,629株	2.31%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	196,600株	1.55%

■ 所有数別状況



※自己名義株式195株は「個人その他」、証券保管振替機構名義株式8,500株は「その他の国内法人」に含まれています。

※記載比率は、小数点第2位未満を四捨五入して表示しています。

■ 株価の推移



株主メモ

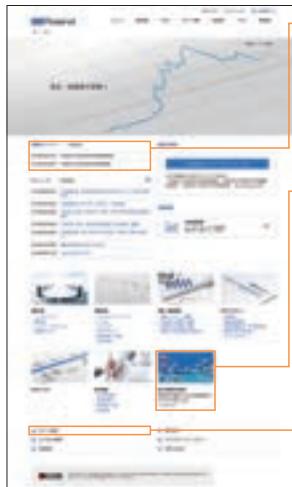
事業年度	毎年1月1日から12月31日
定時株主総会開催時期	3月中
単元株式数	100株
基準日	定時株主総会 12月31日 期末配当 12月31日 中間配当 6月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告します。
公告方法	当社の公告は電子公告とし、インターネットホームページに掲載します。 www.rolanddg.com/ja/investors/ ※ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711(通話料無料) [受付時間 9:00~17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)] ホームページ www.tr.mufg.jp/daikou/ 毎年12月31日現在の1単元(100株)以上所有の株主さまに、年1回当社が選んだ世界各国の名産品(3,000円相当)を掲載したオリジナルカタログの中から一品を選択していただくものです。
株主優待	広報IRユニット TEL 053-484-1400 総務ユニット TEL 053-424-5041
本誌に関する お問い合わせ先	
株式・株主優待に 関するお問い合わせ先	

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお受けさせていただきます。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

IRサイトのご案内

当社 IR サイトがホームページランキング調査で入賞しました。今後もコンテンツや機能を拡充し、積極的に情報開示を行ってまいります。



最新IRイベント

直近の決算発表日や個人投資家向けのIRイベントへの出展など、IRに関する最新情報をお知らせしています。

個人投資家の皆様へ

「事業内容」や「業績」などの基本情報のほか、「当社の強み」や「当社製品の活用事例」などをわかりやすく紹介しています。

IRメール配信

メールアドレスをご登録いただいた方には、ニュースレターや決算情報などの最新情報をメールにてお知らせしています。

www.rolanddg.com/ja/investors/

ローランド ディー.ジー. IR

検索



マルチデバイスへの対応

当社の IR 情報をスマートフォンやタブレットからも閲覧いただくことができます。上記 URL に直接アクセスしてご利用いただけます。

